# 茶道歴史

→ 師弟関係　●新しい手前　チャート茶道史　淡交平成5年1月から6年12月
『　』書籍　■新しい制度　裏千家学園講師　谷端昭夫

1200　1400　1600　1700　1800　1900

和歴：大和　飛鳥 593　奈良 710　平安 794　鎌倉 1192　南北朝 1338　室町 1392　戦国 1467　安土桃山 1574　江戸 1603　明治 1868　大正 1912　昭和 1926　平成 1989
（平安：810 弘仁　834 承和）（戦国：1558 永録　1573 天正）

中国歴：南北朝　隋 581　唐 618　五代 907　北宋 960　南宗 1127　元 1260　明 1368

## 中国

『僮約（どうやく）』
紀元前後、雲南省
四川省、ｲﾝﾄﾞｱｯｻﾑ
喫茶の発生

陸羽（りくう）
727～804
『茶経』
唐代の団茶法

『茶録』
『大観茶論』
『宣和北苑貢茶録（せなほくえんこう）』
宗代の団茶から抹茶へ移行

自らの時代を代表する文化として位置付ける
古来からの公家文化を凌駕する新たな文化の創造者

## 時代

805
最澄、唐から
茶の苗を持ち帰る
894
遣唐使廃止

1214
栄西、宋より帰国
『喫茶養成記』抹茶法
源実朝に茶を献上

1467応仁の乱
新興都市堺の発達
1476日明貿易、遣明船（けんみん）
1484会合衆
1543鉄砲伝来
火薬の輸入ルート新興商人

身分制度の変化
「士農工商」

1739利休150回忌

1853ペリー来航
明治維新
1887「八窓庵」
明治天皇行幸
1890利休300年忌茶会

1906岡倉天心
『茶の本』NYで刊行
1940利休350年忌茶会
五千人以上の参加
献茶式は全国ラジオ中継

## 禁中公家の茶

会所の茶　→　わび茶の流入

聖武天皇（きのみ）
「季御読経」729
国家、安泰祈願
後茶をふるまう

会所に唐物を飾り付けての喫茶　→　書院飾り
闘茶　書院、台子の茶
足利義政　同朋衆
『君台観左右帳記』
能阿弥

織田信長
1569京都1570堺
名物召し置き
1581御茶湯御政道
秀吉茶会の許可

豊臣秀吉1585関白
大徳寺　大茶会
禁中茶会
天皇が公式に初の席入り
・黄金の茶室

後水尾院　常修院宮（1617～16）
遊宴の伴う茶会

1865孝明天皇に献茶
1880北野天満宮で献茶
1886北野大茶会300年記念の献茶

1936北野大茶会
一万人以上の参加

## わび茶（堺、京都の商人）

始まり　完成　／　茶道人口の増大　展開、拡大　崩壊　／　大衆化

村田珠光（1423～1502）→ 十四屋宗悟 →（娘婿）武野紹鷗（1502～1555）→ 今井宗久 / 津田宗及（そうぎゅう）

・四畳半の茶室
茶の湯の和風化
床に和物名物を飾る（掛物）

道具に対する心掛け
倭漢のさかいをまぎらかす
唐物から倭物数寄
月も雲まのなきはいやにて候

一服一銭
庶民の茶

千利休（始祖）1522～91
二畳の茶室
・待庵
草庵茶室の確立

少庵（二世）1546～1614

天王寺屋宗柏（～1527）　宗達（1504～66）
茶の湯と禅の結び付き
大徳寺派禅僧の積極的な布教

山上宗二（1544～）
『山上宗二記』

千　道安

古田織部（1544～1615）
相伴席
身分の上下
・燕庵

織田有楽
室町将軍家の座敷飾りに新たな形式

藪内紹智（じょうち）

1茶樹の源、2製茶用具
3製茶の手順、4点茶道具
5茶の立て方、5飲み方
7茶の歴史、8茶の産地
9略式の茶、10茶の図

薬用としての実利性
仙境に遊ぶ精神的「草庵」の精神に通ずる

茶の湯を含めた文芸の場
会所で掛け物や香炉、花瓶など種々の唐物を飾り付け

利休七哲
古田織部　蒲生氏郷
高山右近　瀬田掃部
細川三斎　牧村兵部
芝山監物

宗旦四天王
藤村庸軒　山田宗偏
杉木普斎
（久須美疎安）1636～1728
（三宅亡羊）1580～1649

## 武士の茶の湯

武家相応の茶の湯の形成、定着　／　諸藩茶道の模索、展開

桑山宗仙
金森宗和（1584～）仁清窯の指導
片桐石州（1605～）
茶道師範
小堀遠州（1578～1647）
・孤篷庵 1612
きれいさび
小間と鎖の間の茶会

流派の分類
茶道役による諸藩の茶

『玩貨名物記』1660
『中興名物』
松平乗（1686～）
『三冊名物集』1741～44

徳川家康（1542～1616）
将軍家茶道師範
相応の茶

## 豪商の茶の湯

表千家
宗左 → 如心斎（1706～1751）
武者小路千家
宗守
川上不白（1716～1807）江戸を中心に普及

三世 宗旦（1578～1658）・今日庵 ・ろう月庵 ・又隠
四世 仙叟（1622～97）
五世 常叟（1673～1704）
六世 宗安（1694～1726）
七世 宗乾（1709～33）
八世 一燈（いっとう）（1719～71）
■免除制
■一子相伝制
●七事式
茶かぶき　しゃ座
廻り炭　花月
廻り花　一二三
数茶

藤村庸軒（ようけん）『茶話別集』（1613～1699）初めてのわび茶書
山田宗偏（そうへん）（1627～）『茶道便蒙鈔（べんもうしょう）』『利休茶道具図集』
杉木普斎（ふさい）（1628～1706）『普斎十巻条』

九世 石翁（せきおう）（1746～1801）
十世 柏叟（はくそう）（1770～1826）

草間直方（1753～）
竹川竹斎（1808～）
銭屋五兵御（1772～1852）

茶道を新たに支える、高官、経済人の出現

十一世 玄々斎（げんげんさい）（1810～77）
●立礼式
幕府の崩壊と日本の伝統文化の壊滅的な打撃

十二世 又妙斎（ゆうみょうさい）（1853～1917）

## 数寄者の茶

松平不昧（ふまい）（1751～1818）
『古今名物類聚（るいじゅ）』1836
井伊直弼（1815～）
『茶湯一会集』
一期一会

益田鈍翁（1848～1938）
根津青山（1860～1940）
原三渓（1868～1939）
畠山即翁（そくおう）（1881～1971）
五島慶太
井上馨（1835～）八窓庵移築披露茶会
高橋箒庵（1811～）『東都茶会記』『大正茶会記』

十三世 圓能斎（えんのうさい）（1872～1924）
●盆略手前
●大円　奥秘

十四世 無限斎（むげんさい）（1893～1964）
淡々斎（嘉代子夫人）
●千歳盆手前

十五世 鵬雲斎（ほううんさい）（1923～）

学校茶道
跡見学園1875
華族学校1891
（後の女子学習院）
共立女子職業学校1912